

第61回日本農村生活研究大会 プログラム

期 日 : 平成**25**年**10**月**11**日 (金) **12:45~17:50**
12日 (土) **9:15~16:30**

会 場 : つくばサイエンス・インフォメーションセンター
(茨城県つくば市吾妻 1-10-1)

★シンポジウム 11日 (金) 13:00~16:40

「新規参入者定着の課題と支援のあり方—生活の視点を踏まえて—」

座 長 : 原珠里氏 (東京農業大学)、向後喜子氏 (千葉県農林水産部担い手支援課)

報告者 : 齋藤京子氏 (農山漁村女性・生活活動支援協会)

鈴木成夫氏 (茨城県農業総合センター専門技術指導員 担い手育成)

布施美木氏 (茨城県常陸太田市 木の里農園)

コメンテーター :

齋藤一治氏 (栃木県農業会議)

★ラウンドテーブル 12日 (土) 13:30~16:30

「新規参入者が見つけた農業・農村の魅力」

座 長 : 市田知子氏 (明治大学)、森嶋輝也氏 (中央農業総合研究センター)

話題提供 : 松井眞一氏 (栃木県茂木町 松井ファーム)

曾木玲子氏 (宮城県大崎市 海の手山の手ネットワーク)

コメント : 佐藤奨平氏 (財団法人農政調査委員会)

笹井美希氏 (日本大学)

主 催 : 日 本 農 村 生 活 学 会

後 援 : 茨 城 県

【第1日（10月11日・金）】

一般受付（12：00～）

（1）開会式（12：45～13：00）

挨拶：日本農村生活学会会長
茨城県

（2）シンポジウム（13：00～16：40）

新規参入者定着の課題と支援組織のあり方 —生活の視点を踏まえて—

座長：原 珠里氏（東京農業大学）

向後 喜子氏（千葉県農林水産部担い手支援課）

報告者：齋藤 京子氏（農山漁村女性・生活活動支援協会）

鈴木 成夫氏（茨城県農業総合センター）

布施 美木氏（茨城県常陸太田市 木の里農園）

コメンテーター：齋藤一治氏（栃木県農業会議）

近年の農業・農村の変化は著しく、特に担い手の高齢化と農家戸数の減少及び耕作放棄地の増加による農業生産の減退が問題となっている。また、非農家出身者の農業への新規参入が増加しているのは明るい兆しであるが、その定着にはまだ問題が多いとされており、女性の意見の尊重や、生活の視点を含めた総合的な定着条件の整備が求められている。

そこで今回の研究大会では、新規参入の問題について、経営主の妻など女性の視点から課題を取り上げ、また、生活の視点からの接近を試みる。同時に、農業生産だけでなく、農と食を巡る諸活動を幅広くとらえる。新規参入農家や支援組織関係者、研究者など様々な立場の関係者からの報告をもとに議論し、普及組織などの支援の在り方を明らかにすることを目的とする。

（3）学会賞授与式（16：40～17：00）

（4）総会（17：00～17：50）

（5）情報交流会（18：30～20：30）

【第2日（10月12日・土）】

（1）一般報告（9：15～12：00）（2会場に分かれて実施します）

A会場（9：15～12：00）

- ① 中山間地域における地域づくりへの挑戦
－地域と大学の協働実践を通して見えてきたこと－
美作大学 堀川 涼・小坂田 稔
- ② 農業・農村の多面的機能を活用した教育プログラムの開発
－鴨川農家民泊組合との連携を事例として－
日本大学短期大学部 田崎 義浩
財団法人農政調査委員会 佐藤 奨平
- ③ 日本酪農発祥之地「嶺岡牧」再生活動における乳食文化の資源化の現状と課題
財団法人農政調査委員会 佐藤 奨平
日本大学短期大学部 田崎 義浩
- ④ 地域の歴史個性を活かした地域食の再生
－“鴨川味の方舟”のマネジメント実証研究－
日本大学大学院 千葉 いずみ
- ⑤ 農業の福祉力の波及した体験受け入れの現状と課題
日本大学 笹井 美希
- ⑥ 市街化調整区域の暮らしと農業について農業者および一般住民の認識
－稲城市坂浜平尾地区を事例として－
明治大学大学院 菊池 和美
- ⑦ 女性農業委員の可能性
－新潟県A市での取り組み事例から－
明治大学大学院 高地 紗世
- ⑧ 農村地域へのIターン女性の次世代育成に関する活動展開の考察
－三重県多気町勢和地域を事例に－
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 遠藤 和子

B会場（9：15～12：00）

- ① 地域版「家計調査」における地域の居住世帯の支出構造の把握と定住促進策へのデータ活用
の試み
島根県中山間地域研究センター 有田 昭一郎
- ② 「2010年世界農林業センサス」のジェンダー統計視点からの検討
－「第2巻 農林業経営体調査報告書－総括編－」を用いて－
昭和女子大学人間社会学部 粕谷 美砂子

- ③ 農業におけるネットワーク型組織の組織間関係の変化について
岩手大学大学院 大友 貴之
岩手大学 佐藤 和憲
- ④ 簡易降雨等観測システムを活用した農村自主防災の取り組み
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 重岡 徹
- ⑤ 漁村における共有資源の利用と分配について：震災後の三陸漁村での取り組み
法政大学 吉野 馨子
- ⑥ 中国山西省における「生態移民」政策と貧困問題
愛知県立大学 西野 真由
- ⑦ イラン農村における生計戦略と女性の経済活動
千葉大学大学院 高木 茂・小林 弘明・丸山 敦史
- ⑧ 日本におけるCSAの展開に向けた課題と支援組織の役割
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 唐崎 卓也

(2) 昼食 (12:00~13:30)

(3) ラウンドテーブル (13:30~16:30)

新規参入者が見つけた農業・農村の魅力

日本農業の担い手や農村地域の高齢化、限界集落化などが深刻な問題となっている。一方、都市住民の農村へのIターンや農村出身者のUターンなど、農村以外の世界を知る人たちの農村への移住が、農村活性化や農業振興のために不可欠な要素となってきている。その際に、参入者や移住者による、農村の生活環境・職業環境・自然や農村コミュニティーなどへの高い評価は、農業への新規参入や農村への移住の際のモチベーションとなっている。

このラウンドテーブルでは、都市から農村に家族ぐるみで移住し、農業に従事するとともに地域の農村社会に積極的にとけこんでいる2人の方に、農業・農村の魅力を語って頂く。同時に、地域で農業に従事し農村生活を送る上での障害や困難性についてもお話しいただく。こうした発表を素材にして自由に議論することにより、新規参入者から見た農業・農村の魅力についての見識を深めることをねらいとする。これにより、農業への新規参入者をよりよく理解するとともに、普及組織や行政組織の支援のあり方などに関する知見を得ることを期待する。

座長：市田 知子氏 (明治大学)、森嶋 輝也氏 (中央農業総合研究センター)

話題提供：松井眞一氏 (栃木県茂木町 松井ファーム)

曾木玲子氏 (宮城県大崎市 海の手山の手ネットワーク)

コメント：佐藤奨平氏 (財団法人農政調査委員会)

笹井美希氏 (日本大学)

(4) 閉会式 (16:30)

挨拶 日本農村生活学会副会長

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○大会参加費等について

・参加費（要旨代を含む）	日本農村生活学会会員	4,000円
	非会員	6,000円
	学生会員（含非会員）	2,000円
・要旨のみ		2,000円
・情報交流会	一般	4,000円
	学生会員	2,000円
・大会記念誌（過去の大会の歩み）	会員・非会員（希望者）	1,000円

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【会場までの交通案内】

大会会場：つくばサイエンス・インフォメーションセンター
（住所：茨城県つくば市吾妻1-10-1）

アクセス：つくばエクスプレス（TX）終点のつくば駅、高速バス「つくばセンター」から徒歩5分

●電車の場合

つくばエクスプレス（TX）でつくば駅（終点）にて下車（快速で秋葉原から所要時間約45分）
【時刻表と所要時間一覧は <http://www.mir.co.jp/> 参照】

●高速バスの場合

「つくばセンター下車」
東京駅八重洲南口から高速バスに乗車
【時刻表は <http://www.kantetsu.co.jp/bus/highway/center/center.html> 参照】

交通案内



●本数は限られていますが、羽田空港、成田空港から「つくばセンター」までの直通バスも運行されています。「関東鉄道」のWebサイトに時刻表があります。

(一般社団法人つくば観光コンベンション協会HPより)

【会場周辺の宿泊案内】

●TX つくば駅周辺

- オークラフロンティアホテルつくば（会場の隣）
- オークラフロンティアホテルつくばエポカル（会場まで徒歩10分）
- ダイワロイネットホテルつくば（会場まで徒歩5分・つくば駅前）
- ホテルグランド東雲（会場まで徒歩10分）

●TX 研究学園駅周辺（つくば駅から東京寄りにひと駅）

- ホテルペストランド
- 東横インつくばエクスプレス研究学園駅北口
- ホテルマークワンつくば研究学園

○ご宿泊は 各自で直接ご予約頂く ようにお願い致します。

【会場周辺の地図】



【駐車場案内】

会場は、つくばエクスプレス (TX) の「つくば駅」、高速バス・路線バスの「つくばセンター」に近く、公共交通の便のよい場所にあります。公共交通機関のご利用を推奨いたします。

会場周辺では、「アップルパークつくば駅前第1」(住所：茨城県つくば市吾妻1-14) が会場から至近距離にあります(1日最大500円)。このほか、つくばセンター周辺では、「一般財団法人 つくば都市交通センター」が管理する駐車場が複数ありますが、30分で110円と高い料金設定となっております。

●つくば駅・つくばセンター周辺

「アップルパークつくば駅前第1」 <http://tsukuba.ch/shop/?id=9618>

「一般財団法人 つくば都市交通センター」 <http://www.tutc.or.jp/carpark/index.html>

●研究学園駅周辺

つくばエクスプレス (TX) の「つくば駅」の隣(東京方面からひとつ手前)の「研究学園駅」周辺には、比較的安価な有料駐車場があります。「研究学園駅 駐車場」のキーワードで Web 検索して下さい。

申し込み方法：申込書に必要事項をご記入のうえ、10月7日(月)までに
下記宛先までお送り下さい(申込書ファイルは学会 HP から
ダウンロードできます)。

学会ホームページ：<http://ruralife.ac.affrc.go.jp/>

参加申し込み先：大会委員会事務局(参加費は当日徴収いたします。)

FAX：03-6369-4808

E-mail：xx052014@affrc.go.jp

お問い合わせ先：〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所内

日本農村生活学会総務委員会(大会委員会事務局)

Fax：03-6369-4808 Email：xx052014@affrc.go.jp